

## 未来を語る！ 富士河口湖町・富士吉田市・都留市

### 町長さんと語る会～富士河口湖町の未来を創る子供会議～

○日 時 10月31日(金) 14:15～16:00

○場 所 富士河口湖町役場 議場

○主催者 富士河口湖町児童生徒連絡協議会

○参加者 各小学校児童会役員16名、各中学校生徒会役員7名

富士河口湖高校、ふじざくら支援学校生徒会役員各2名

富士河口湖町長、副町長、教育長、全課長ほか

○テマ

「富士河口湖町をさらに魅力ある町にしていくためには」

○内 容

・今年の語る会は、(1)町長さんに質問しよう (2)児童生徒による一般質問 (3)各校からの提案 の3つの柱で構成されました。

・(1)では、「趣味は何ですか?」などの質問に、笑いを交えて町長さんが答えてくれたため、とても和やかな雰囲気になりました。

・(2)では、町が行う施策について、子供たちが議員さながらに質問を行い、担当課長の皆さんが、一つ一つ丁寧に答弁しました。

「子供真ん中社会の実現に向けての取組は?」「水道水の安全をどう保っていますか?」「学校のタブレット端末が壊れた時の対応は?」など鋭い質問が相次ぎました！

・一般質問の後は、各校が「理想とする富士河口湖町」を実現するために取り組んでいることを町長さんに提案しました。

・最後に町長さんから、「人の発言に耳を傾けよう!」「協力することを大切にしよう!」など、子供たちに熱いメッセージをいただきました。

○参加者の感想

【小学生】「町長さんや課長さん方と町のことについて意見交換ができる、とてもよかったです。今日学んだことを家族や友達に話したいです！」

【中学生】「町長さんの今まで知らなかった一面が知れてとてもうれしかったです。今日の経験を生かして、私たちの町を私たちの手でよりよくしていきたいと思います！」

【高校生】「町の課題について直接町長さんや課長さんとお話しできて、この町に対する思いを感じることができました。この町のために高校生としてできることを実践していきます！」



渡辺英之富士河口湖町長



全ての課長さんが出席！



「水道課長、答弁をお願いします」



担当課長さんが丁寧に答弁



「笑顔溢れる町になってほしい！」



鋭いまなざしで答弁を聞く生徒



終了後、町長さんを囲んで全員で記念撮影！みんな良い笑顔です！

## 市長さんと話す会 in 富士吉田市

○日 時 11月11日(火) 14:30~16:00

○場 所 富士吉田市民会館小ホール

○主催者 富士吉田市児童生徒連絡協議会

○参加者 各小学校児童会役員14名

各中学校生徒会役員11名

富士吉田市長、教育長、企画部長、教育部長ほか

○討議の柱

①「よりよい富士吉田へ！私たちが考える市長さんへの提案と要望」

②「富士吉田市の未来を担う私たちが、小中学校で身につけたい力とは」

○内 容

・①では、地域ごとに小中混合の3グループに分かれ、「交通・観光」「食文化」「施設・イベント」をテーマに、市長さんにプレゼンを行いました。

・市内施設での市民割引制度、観光客向けのうどんづくり体験イベント、外国の方との交流会など、富士吉田をもっとよくするための具体的なアイデアがたくさん出ました。

・市長さんは子供たちの意見に熱心に耳を傾け、一つひとつ丁寧に答えてくださいました。

・②では各校が発表し、「コミュニケーション力を高める」「地域行事に積極的に参加する」「あいさつをしっかりする」など、自分たちが取り組むべきことを共有しました。

・最後に渡邊治男教育長から講評があり、児生連の活動を通じて成長した子供たちに温かい言葉が贈られました。

○参加者の感想

【小学生】「今日は市長さんと話せて、たくさんのことを学べました。学校に戻って仲間と話し合い、できることから始めたいです。」【中学生】「市長さんや教育長さんと富士吉田市の良さや未来について話し合えたのは貴重な経験でした。今日学んだことをこれから的生活に生かしていきたいです。」

## 都留リーダーサミット in 都留市

○日 時 11月14日(金) 14:20 ~ 16:00

○場 所 教育プラザ都留 大研修室

○主催者 都留市児童生徒連絡協議会

○参加者

各小学校児童会役員21名

各中学校生徒会役員等9名

都留興譲館高校生徒会役員3名

教育長、教育委員ほか

○テマ

「都留市の未来を考える～安心して生活できるまちへ～」

○内 容

①谷村第一小学校、都留第二中学校がISS（インターナショナル・セーフ・スクール）の取組を発表しました。



## ②グループ討論

- ・小中学生混在の3グループに分かれ、都留興譲館高校の生徒は助言者として各グループに一人ずつ参加しました。
- ・「都留市にどんなまちであってほしいか」について個人で考え、黄色い付箋に記入し模造紙に貼付。その後、グループで意見交換を行いました。
- ・次に、都留市を理想のまちにするために、「力を貸してほしいこと」を赤い付箋、「自分たちにできる取組」を青い付箋に記入し貼付
- ・それらを元にグループで熟議を行い、最後にグループの代表が全体で発表しました。



討議を見守る小林正人教育長　　グループでまとめた意見を発表！



参加者全員で記念撮影！

### ○参加者の感想

「他校の人と暮らしやすい都留市について話し合えて良かったです。今回の経験を生かし、学校でもできることを考えたいです。」

「他校の代表と、都留市の未来について話し合えて楽しかったです。こういう機会が多くあれば良いと思いました。」

3つの自治体の意見交換会を通じて、子供たちは首長や教育長と真剣に語り合い、理想のまちと自分たちの役割を見つめました。未来を創る力は、ここから始まります。子供たちのまっすぐな思いが地域を動かす希望となりました！

## 都留第一中学校・青藍幼稚園『異校種交流で育む思いやりと笑顔』

○日 時 10月21日（火）10:20～11:40

○場 所 都留第一中学校体育館およびグラウンド

○参加者 都留一中 1年生64名

青藍幼稚園（3～5歳児）34名

### ○内 容

- ・家庭科の保育の実習として行われた交流会でした。
- ・中学生が幼稚園児の胸に名札を貼って交流がスタート。
- ・幼稚園児が可愛らしい「毎日育てマッチョ体操」を披露。中学生も園児と一緒にマッチョ体操を踊りました。
- ・中学生が迫力ある「ソーラン節」を披露し、今度は園児が中学生と一緒にソーラン節にチャレンジしました。
- ・その後、場所をグラウンドに移し、園児全員と中学生の一部が参加して混合リレーを行い、大盛り上がりでした。
- ・終わりの会までの10分間は自由時間となり、ボール遊び、大縄跳び、鉄棒、追いかけっこなど中学生と園児が入り交じって仲良く遊んでいました。
- ・終わりの会では、中学生からサプライズプレゼントが贈られ、園児たちは笑顔いっぱいになりました。

### ○中学生の感想

「私たち自身も楽しめたし、うれしかった。園児は失敗すると『ごめんなさい』って謝ることができて、私も見習おうと思った。」「子供によって接し方を少し変えるのが大変だったけど、子供になつかれてうれしかった。」「小さい子はどう接したらいいか分からなかったけど、実際に会ってみるとその子の様子に合わせて接することができました。」

中学生にとっては、幼稚園児の世話や遊び相手になることで、思い

やりやリーダーシップが育れます。また、幼稚園児にとっては、中学生との交流を通じて、年上の子供たちへの憧れや安心感が育ちます。このような異校種間の交流は、双方にとってとても意義のある取組だと強く感じました！



「お名前は？名札を胸に貼るね！」



みんなで“マッチョ！”体操



ソーラン節を教えています



「上手にできたね！」



「リレーするからくっくっくこうね！」



小さな園児とは一緒に走りました



「どうしたの？」



すっかりなついています！

# 大月キリストの教会幼稚園 ~平和教育と子供がつくる運動会~

## 平和教育: 遺髪塚のお参り

- 日 時 10月27日（月）
- 参加者 ゆり組（年長児）さくら組（年中児）計17名
- ねらい

大月空襲で犠牲になった方々を祀る遺髪塚へのお参りを通して、平和への思いを育み、他者への思いやりの気持ちを育てる目的としています。

### ○主な内容

- ・7月：理事長先生から平和、大月空襲、遺髪塚についてのお話を聞き、それぞれ考えたことを意見交換。
- ・10月：担任の先生から再度同じ話を聞き、千羽鶴に込めた思いを伝え合い、遺髪塚へのお参りを計画。
- ・当日：これまで折り続けてきた千羽鶴を持参し、遺髪塚をお参り。すべての園児の平和への思いが込められた千羽鶴を捧げました。

### ○子供たちの感想

「みんなで一生懸命折った鶴を、爆弾で死んでしまった人にあげて、喜んでもらえたと思う。」「みんなで頑張って千羽鶴を作って、遺髪塚に行って、もう絶対戦争が起こらないようにと思った。」



## 子供たちがつくる運動会

- 日 時 10月3日（金） 10:10～11:40
- 参加者 ゆり組（年長児）さくら組（年中児）計17名
- ねらい

子供たちが自分たちで種目や発表活動の内容を考えるなど、運動会の運営等を通じて、子供たちが主体性を身につけることを目的としています。

### ○主な内容

- ・毎年、運動会で行う競技種目や班分けは、園児たちが話し合いで決めています。やりたいことがたくさん出て、種目を決めるのも大変でした。
- ・リレーのアンカー決めでは、2人の園児が立候補しました。「本番と練習を交代でやろう」と話し合いで決めるなど、相手を思いやり問題を解決する姿が見られました。
- ・「チャレンジ」は、各園児が得意な種目（平均台、跳び箱、鉄棒など）を自分で選んで決める形式で行われました。頑張って発表した園児を他の園児たちがハイタッチで迎える場面もあり、仲間の頑張りを自分事として喜ぶ姿がとても素晴らしいと感じました。

### ○子供たちや保護者の感想

【園児】「ダンスとか、玉入れとか、みんなで運動会をやって楽しかった。」

【保護者】「跳び箱などに挑戦した後、みんな、お友達の所に走っていき、ハイタッチしたりハグをしたり、、、。一緒に喜び合う様子がとても温かくキリスト幼稚園ならではだなあと見ていて嬉しくなりました。」

先生が「こうしよう」と誘導するのではなく、子供たち自身の興味や関心を出発点とし、友達と共に考え、話し合いながら活動を進めていく教育を大切にしている大月キリストの教会幼稚園です。平和教育や運動会でも、子供たちが自ら考え、選び、行動する力を育むことをねらいとし、心豊かな成長を支えています！



## やまびこ支援学校・都留高校 ~笑顔あふれるハロウィーン交流会~

○日 時 10月27日(月) 16:20 ~ 17:40

## ○場 所 やまびこ支援学校体育館

○参加者 やまびこ支援学校寄宿舎生4名

都留高校生徒会役員・ボランティア同好会17名

## ○内 容

- ・ハロウィーンの仮装で集合。はじめの会後、チームごとに自己紹介。続いて、やまびこ支援学校の「キーワード探しゲーム」と都留高生の「じゃんけん列車」と一緒に楽しみ、親睦を深めました。

「キーワード探しゲーム」ランダムに置かれた箱から問題を指定する紙を選び、指定されたクイズに答えます。正解すると、5文字のキーワードのうち1文字がもらえます。5文字すべてを集めてキーワードを完成させたチームが勝利となります。大月市、都留高校、そしてやまびこ支援学校に関するクイズに、みんなで協力して取り組んでいました。

「じゃんけん列車」負けた生徒が動物の鳴き声のものまねをするなど、楽しめる工夫がされており、一勝負ごとに大きな歓声が上がり、大いに盛り上りました！

## ○参加者の感想

【やまびこ支援学校生】「今日は初めて都留高のみなさんとの交流会に参加しました。一番楽しかったのは『キーワード探しゲーム』です。また一緒にゲームを楽しみたいです！」

【都留高生】「今日はやまびこ支援学校の生徒さんたちとゲームを通して交流できてとても楽しかったです。校舎を案内してくれたり、寄宿舎の生活を教えてくれたりして、知らなかつたことを知ることができてとても良かったです。これからもこのような機会を大切にしていきたいです！」

普段とは異なる仲間との交流を楽しみ、素敵な笑顔がたくさん見られました！このような交流から、人と人のつながりが築かれるものと強く感じました！



やまびこ支援学校・上野原高校 ~ともに学び、ともに生きる未来へ~

○日 時 11月25日(火) 13:00 ~ 15:00

○場 所 やまびこ支援学校

○参加者 やまびこ支援学校高等部21名

### 上野原高校「福祉」選択者3年生24名

## ○内 容

- ・上野原高校の3年生のうち、選択科目「福祉」を受講している生徒が、実習として年2回、やまびこ支援学校での交流事業参加しています。将来、医療・保育・福祉・介護を希望する生



「こうやって掃いてください！」

## 空いた時間に即興ゲームで交流！

・「サービス班」「工芸班」「農園班」「A班」の4グループに分かれ、両校の生徒が授業を通じて交流しました。

・サービス班では、後日行われる『カフェベル』（地域住民対象の喫茶イベント）に向けて、店内の清掃や飾り付け、在庫管理を協力して行いました。やまびこ支援の生徒が主体的にリードする場面もありました。

・工芸班では、陶芸のお皿作りを実施。この日は色付け作業を行い、デザインについて活発な意見交換がありました。

・農園班では、雨天のため屋内で調理実習を行いました。やまびこ支援の生徒が栽培した大根を使い、各自オリジナルの味付けで漬物を作りました。

・A班では、両校の生徒が協力して、しづく染めのハンカチづくりを行いました。

#### ○参加者の感想

【上高生】「工芸の経験はなかったのですが、やまびこの生徒さんたちと協力して作品を作れたのでとても楽しかったです。今日の経験をこれから的生活に生かしていきたいと思います！」

【やまびこ支援の生徒】「今日は上高生のみんなと協力して漬物を作れたので楽しかったです。また交流したいです！」

お互いの違いを知り、理解し合うことで、誰もが安心して暮らせる社会に一步近づくことができます。今回の交流は、これからの社会を担う彼らにとって、そのような社会を築くために必要なことを学ぶ貴重な機会となりました！

## ひばりが丘高校 AI教材を活用した学習～“教え込む”から“伴走する”へ！～

○日 時 11月4日（火）14:40～16:15

○場 所 ひばりが丘高校

○生 徒 高校1年生1名と高校2年生3名の計4名

○内 容

・同校で実施されている「IS basic」の授業を参観しました。ISはIndividual Studies（個別学習）の略です。  
・授業では、AI教材『すらら』を活用。『すらら』は個別最適化学習と自由進度学習を可能にする教材で、生徒は自分のパソコンを使い、教科や単元、学習目標を自ら設定して学習を進めます。

#### 【学習の流れ】

(1) **レクチャー**：アニメーションによる解説動画で知識をインプットします。

(2) **ドリル**：生徒はAIが自己の能力に合わせて提示する問題を解き、知識の定着を図ります。ドリルの出来具合に応じて問題の難易度が自動調整され、最適なレベルで学習できます。

(3) **確認テスト**：学習内容が定着したかテストで確認。不十分な場合は、つまずいた箇所に戻りやり直します。“できる”に導く学習が最大の特長です。

ひばりが丘高校は、これまでの学びをより深め、定着を図るために、2年前から『すらら』を導入。学び直しを効果的に行い、「誰一人取り残すことのない学び」を実現すること、そして「主体的に学習に取り組む生徒をサポートする新たな教師の役割」への挑戦と、先進的な取組を続けています！



# シオジ森の学校 土壌動物観察会＆ロケットストーブづくり

## 土壌動物観察会

○日 時 11月15日（土）9:00～15:00  
○場 所 シオジの森（大月市七保町瀬戸）  
○参加者 1家族4名、20歳代男性1名、スタッフ3人  
○講 師 昭和大学教授 萩原康夫 先生  
○内 容

- ・まず、萩原先生より、カニムシの生態や採集の際の注意事項などのお話をありました。
- ・採集の方法は次のとおりです。
  - ①微生物が生息する地面の土を手ですくい、トレイに撒く。
  - ②ふるいにかけ、細かな土や微生物を白い布の上に落とす。
  - ③それらをじっと眺め、虫が動くのをじっと待つ。
  - ④虫を見つけたら、ルーペなどで観察する。
- ・あまりにも小さいため、ピンセットでつまむと潰れてしまうので、先生手作りの吸引型採集器で捕獲しました。
- ・シャーレに移し、専用のカメラで撮影し、みんなで観察しました。
- ・子供たちは肉眼でもカニムシの動きを確認でき、とても興奮している様子が印象的でした。

## ○感 想

【小学生】「楽しかった。カニムシをたくさん見つけられた。来年もやりたいです。」

【保護者】「子供たちがいなかったら、たくさんの虫を土の中から見つけることができなかったと思います。こんなにたくさんの生き物がいるんだと思いました。来年もぜひ参加したいです。」



萩原先生(左)の説明を聴く子供たち



虫を探す親子



子供たちに大人気のカニムシ(見本)



頻繁に爆竹を鳴らし、熊対策もバツチリ！



この中の虫を探します♪  
目が疲れます(^\_^\n)

## ロケットストーブづくり

○日 時 11月24日（祝）9:00～13:00  
○場 所 大月市水下ベニヤ商会  
○参加者 14名（3組のご家庭が参加）  
○講 師 大月市長 小林信保 氏  
○内 容

- ・少量の木材で強力な火力を生む、熱効率の高いロケットストーブを製作しました。
- ・ホームセンターで手に入る材料と基本的な道具で、初心者でも簡単に作れます。
- ・アルミ缶の切断や長さの調整など、やや苦戦した部分もありましたが、けがもなく全員が無事完成しました。
- ・最後は、ロケットストーブと釜で炊いたご飯と、小林氏手作りのカレーを食べながら楽しく語り合いました。

## ○参加者の感想

【高校生】「初めて使う道具もあり少し難しかったけど、小林さんたちが優しく教えてくれたので完成できて

嬉しかったです！」【小学生】「ロケットストーブで炊いたご飯がすごくおいしくて、頑張った甲斐がありました。楽しかったです！」【大人】「ネットで紹介されているものより簡単で実用的だと思いました。畑でお湯を沸かしてコーヒーを飲むのに使いたいです！」

今回の『ロケットストーブづくり』で、今年の『シオジ森の学校』は幕を閉じました。森の恵みを生かした楽しい授業の数々に、多くの方にご参加いただきました。この貴重な自然を未来に残すため、これからも森の学校の活動を大切にしたいと強く感じた一年でした！



ロケットストーブ



講師の小林信保大月市長



初めて使うドリルに苦戦♪



新たな仲間との歓談を楽しみました



楽しい一日となりました！

# 未来をつくる新たな授業！「よのなか科」特集

よのなか科ルール

- ①静かにしない！(黙らない)
- ②電源切らない！(つなぎっぱ)
- ③カンニング・パクリ大歓迎

よのなか科とは？

→教育改革実践家・藤原和博氏が提唱する、全く新しい形の授業です。正解がないとされる課題に対して「納得解」を考え、これからの時代を生きるために必要な「情報編集力」(身につけた知識や技術を組み合わせて納得解を導き出す力)を身につけることを目的としています。授業では「ブレインストーミング」「ロールプレイ」「200字作文」「ディベート」などの活動を通して、自らの意見を発信する力を養うと同時に、「思考力」「判断力」「表現力」を育みます。さらに、地域社会の方々や大学生、企業のビジネスパーソン、保護者など、さまざまな大人と高校生が一緒に授業を受けることも大きな特徴です。

## 富士北稜高校『難題に立ち向かう！』～医療技術と倫理の総括問題～

○日 時 11月10日(月) 13:30 ~ 15:00

学校HPはこちら→



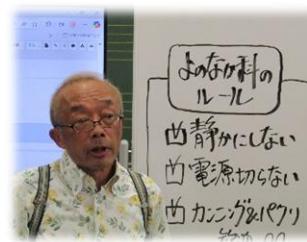
○場 所 富士北稜高校 音楽室

○参加者 教養系列の3年生20名(選択者)

大人約20名(教育委員会、地域住民など)

○講 師 藤原和博 先生(教育改革実践家)

○内 容



“教育界のさだまさし”こと藤原先生



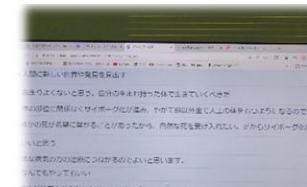
藤原先生の講義からスタート



高校生と大人が活発な意見交換



ディベートの様子



多くの意見を全員で共有する工夫も



授業後のリフレクションの様子

・富士北稜高校ではこの4月から全20回の授業が始まり、今回は第14回目。今回のテーマは「自分の体をどこまで変えてよいか？ プチ整形から性転換まで」でした。

・藤原先生の講義の後、「自分の体を技術的に変えることは非」についてグループで意見交換を行いました。

・次に、1対1のディベートを行い、賛成・反対の立場を交互に取りながら討論しました。これにより、問題を多角的に捉える力を養いました。

・その後、話題は「臓器提供」に広がり、死生観に関する哲学的な問い合わせと発展。大人でも意見を構築するのが難しいテーマでしたが、生徒たちは積極的に議論に参加しました。

・最後に、200字作文に挑戦。テーマは「人間の体のサイボーグ化～医療分野の再生技術は人間に何をもたらすのか

～」。短時間ながら、多くの生徒が自分の意見を自分の言葉でまとめることができ、非常に印象的でした。

○高校生の感想

「よのなか科の授業は、大人の方や友達と意見交換をすることで多くのことを学べるので毎回楽しく受けています。今日は難しい話題でしたが、自分なりに考えていることを伝えられたと思います。」

## 吉田高校『思考を深める！』～君たちはどういう時代に生きるのか？～

学校HPはこちら→



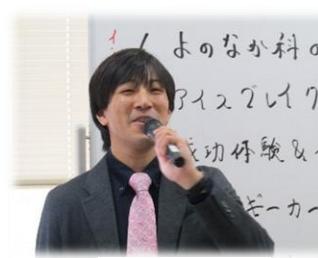
○日 時 12月6日(土) 9:00 ~ 11:20

○場 所 吉田高校 学生ホール

○参加者 2年生81名(希望者) 大人13名

○講 師 徳満裕樹 先生(吉田高校教諭)

○内 容



講師の徳満先生



熱気溢れる会場の様子

・吉田高校では昨年度、藤原和博先生による「よのなか科」が展開されました。そのノウハウを身につけた徳満先生が、本年度は講師を担当し、12月～1月の土曜日に全5回(合計10時間)実施予定です。

・希望制にもかかわらず、2年生の約半数が受講し、生徒の「よのなか科」への期待の高さがうかがえました。

・授業は2時間構成でした。

### 1時間目：「人生のエネルギー曲線を描いてみよう！」

ルール確認などのガイダンス後、アイスブレイクを行い、人生のエネルギー曲線をグラフにし“見える化”。それぞれの人生の出来事を共有し、情報交換を行いました。

### 2時間目：「きみたちはどういった時代に生きるのか？」

AIの発達によりなくなる仕事、なくなる仕事、新しく生まれる仕事について、グループで活発な意見交換を行い、多様な視点を学びました。

・最後は恒例の200字作文。「授業をAIで実施できるようになれば、教員の仕事は無くなると思うか？」について、意見・理由・体験を盛り込みました。『教科の内容はAIの動画学習でもできるが、生徒指導などは先生にしてもらいたい』などの意見が印象的でした。

#### ○高校生の感想

「答えのない問い合わせについて、大人や同級生と意見交換することで、視野が広がり、考えを深められました。思考力が鍛えられたと思います。すごく楽しい授業でした！」



ワークシートに考えをまとめます

交換して考えをシェアします



「〇〇がなくなると思います！」付箋の意見を班で共有しました



学校HPはこちら→

## 都留高校『ディベートで視野を広げる！』～大学に行くことは必要か？～

○日 時 12月4日(木) 13:55～15:30

○場 所 都留高校 大会議室

○参加者 2年生の希望者33名 大人5名

○講 師 渡邊暁子 先生(同校家庭科教諭)

○内 容

・都留高校では2年前に「よのなか科」を導入し、昨年度から松田先生が中心となり、オリジナルの「よのなか科」を展開しています。

今年度は全27回を予定しており、今回は第23回の授業でした。

・本日は渡邊先生が講師を務め、「大学に進学することは必要か？」をテーマに、ディベートを通して表現力や思考力を高める授業が行われました。

・授業では、まずスマホで大学進学に関する情報を調べ、グループで共有。その後、大学に行くメリット・デメリットについて活発な意見交換が行われました。

・次に、1対1でディベートを実施し、賛成・反対の両方の立場で意見を表明。続いてペア同士で組み、2対2のディベートを行い、様々な考えを共有しました。

・最後は「よのなか科」の特徴である200字作文に挑戦。テーマは「学校の授業を動画授業に置き換えることについて」。短時間ながら、生徒の多くがメリット・デメリットを的確に挙げ、自分の意見をまとめていました。

#### ○感 想

【高校生】「今日の授業はちょうど自分の両親と同じくらいの年齢の方と大学進学について話すことができ、参考になる意見がたくさんありました。今後の進路選択に生かしたいと思います。」

【大人】「よのなか科の授業の良いところは、一つのテーマに対して様々な立場の方の意見を共有できることだと思います。本日は大人の参加が少なかったので、保護者や地域住民が参加しやすい工夫をすると良いと思いました。」



講師を務めた渡邊先生



スマホのカンニングOK！



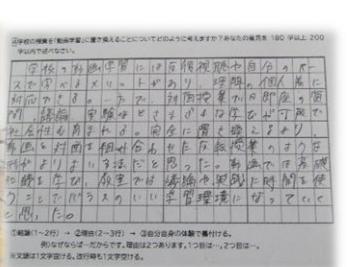
「大学に行くメリットは～」



1対1のディベートの様子



2対2のディベートの様子



短時間でこんなに！すごい！



短時間でこんなに！すごい！

# 地域企業と学校の連携事業～金融教育&SDGs教育～

## ゆうちょ銀行甲府支店～金融教育～

○日 時 11月8日（土）9:30～10:30

○場 所 大月東小学校

○参加者 5年生33名 保護者27名

○講 師 ゆうちょ銀行 甲府支店

飛田正人 氏、両角あゆ美 氏、渡辺理穂 氏

### ○内 容

・ゆうちょ銀行甲府支店の出前授業は14年前から行われており、小さい頃からお金に関する正しい知識を身につけてもらいたいという思いで始まりました。

・専用のテキスト（小学校～高校）もあり、系統的に学べるプログラムとなっています。

・この日の授業内容は以下の通りです。

- 1 お金の歴史と役割
- 2 おこづかいの管理について考えよう！
- 3 お金を使うことにルールはあるの？
- 4 銀行に預けたお金はどう役立っているの？
- 5 社会のつながりと物の値段の成り立ち

・お金は“欲しいもの”より“必要な物”に優先的に使うことや、子供同士でお金をやりとりしないようにすることなど、児童の生活に合わせた話から、お金が社会の中で果たす役割といった専門的な話まで、分かりやすく解説してくれました。

・最後にはサプライズ企画「1億円を持ってみよう！」が行われ、用意された見本の1億円の札束（約10kg）を児童全員が交代で持ち上げ、1億円の“重み”を体感しました。



## 明治安田上野原営業所～ゲームで学ぶ『SDGs』授業～

○日 時 12月23日（火）9:25～12:10

○場 所 上野原小学校

○参加者 3年生58名

○講 師 明治安田上野原営業所 程田光太郎 氏

### ○内 容

・明治安田生命は、子供の健全育成や環境保全など、持続可能で希望ある社会づくりに取り組んでいます。

・この日は、明治安田生命が独自に開発・製造した「ハッピータウンメーカー」というボードゲームを用いて、予算（お金）の使い方やまちづくりを通してSDGsについて学びを深める授業です。

・子供たちは「まちづくりのリーダー」として、与えられた予算を使い、町の人々の不満をいかにハッピーに変えるかをゲームで競います。

・3～4人1班になり、全員で意見を交わしながら理想的なまちづくりを進めていきます。「人々の生活にきれいな水が必要だから浄水場をつくろう！」「病気の人を助けたいから病院をつくろう！」など、子供たちの間で積極的な意見交換が行われました。

・海や山を守る取組をしていたら臨時ボーナスをもらえるなど、子供たちが夢中になる工夫やSDGsの理解を深める仕掛けが随所にあります。



・子供たちはゲームに熱中しながらも、予算（税金）の使い方や人々の暮らしの在り方など、他者との話し合いを通して様々なことを学ぶことができ、まさに「**主体的・対話的で深い学びの授業**」が実現していました！

#### ○感 想

【小学生】「もらったコイン（予算）をいかに人々のハッピーにつなげるか、みんなと話し合いながら考えるとても面白いゲームでした。」【小学校教諭】「子供たちが社会や理科の授業で学んだ知識を使ってゲームに取り組んでいたので、樂しみながらも学びの喜びを感じてくれたと思います。地域の方と連携し、魅力ある授業ができると実感しました。」

## 対等な対話が教育を変える！！ 令和7年度 教育懇談会

○日 時 11月28日（金）18:00～20:00

○場 所 南都留合同庁舎 4F 大会議室

○参加者 県教育委員会関係者17名

地元中高大学生、保護者、学校関係者22名

○内 容

・県教育長と県教委関係者、県民が山梨の教育について対等な立場で意見交換し、施策に生かすため毎年開催。今年のテーマは『魅力ある学校とは？』～子供・先生・地域がつくる未来の学び～。

・荻野県教育長の挨拶後、「心が和んだ出来事」を含む自己紹介でアイスブレイク。

・その後、①現在の学校 ②これからの学び ③魅力ある学校 の3テーマで意見交換。

・①では、教育の現状や公教育の大切さを話し合い、②では、未来の社会に必要な学びをブレインストーミング、③では、「魅力ある学校」づくりのために、家庭・学校・地域の立場から付箋でのアイデア出しを中心意見交換。グループごとに意見をまとめ、代表者が発表し、全体で共有。

・最後に、熟議を経て、それぞれが考える“魅力ある学校”をテーマに200字作文で提言。

「人との関わりを大切にした教育を行う」

「子供の自己肯定感を高める学校」

「子供の興味関心を尊重した学びのある学校」

「先生だけではなく、家庭や子供、地域と一緒に考えてつくる学校」

「一人一人が居場所を尊重される学校」

「不透明な時代に柔軟に対応できる学校」

○参加者の感想

【中学生】「いろいろな大人の人がいて緊張したけど、自分の考えをしっかり言えました。良い経験になりました。」

【高校生】「様々な立場の方が異なる意見を持っていることを知れて良かったです。私の意見も受け止めてもらえてうれしかったです。」

【大学生】「教育行政の方と対等に話し合える機会はなかなかないので、本当に貴重な時間でした。多様な意見を知ることができ、とても良い経験となりました。」

【県教委関係者】「県民の方々とフラットな立場で意見交換し、今後の教育のあるべき姿や施策のヒントを頂きました。特に子供の主体性を生かす教育の充実について、しっかり取り組んでいきたいと思います。」

**教育長をはじめとした県教育委員会関係者が、子供や地域住民の声を真摯に受け止め、対等な立場で議論することが、この会の最大の特色です。こうした対話が、山梨の教育の新しい可能性を開いていきます！**



会場の様子

よのなかルール“カンニングOK”

荻野教育長も積極的に議論に参加！

活発に意見交換しました！

教育監と高校生の微笑ましいやりとり

付箋を模造紙に貼り意見を共有

全体発表の様子

多様な意見に聞き入る参加者

# 都留市コミュニティ・スクール ~「学校から始まる、まちの未来」~

魅力ある学校・まちづくりを目指す都留市のコミュニティ・スクール（CS）の取組を紹介。

**目的** CSを活用し、「地域総がかりで子どもたちと未来を育む都留市」の実現を目指しています。学校を核に、地域全体で子どもを支える仕組みづくりを進めています。

**設置の歩み** 2017年（平成29年）旧旭小学校でCSを導入。2023年（令和5年）宝小・谷村第二小での導入を機に本格展開が始まり、現在は市内全小中学校での導入準備を進めています。

## 熟議 — 地域と学校をつなぐ「核」

- ・都留市のCSの中心となる活動が「熟議」です。これは、学校運営や教育活動について、地域の方・保護者・教職員・児童生徒が“対等な立場”で意見を交わし、議論を深める場です。単なる報告会で終わるCSの“形骸化”を防ぎ、地域の知恵や力を学校教育に生かすために導入されました。
- ・都留市の熟議の特徴は、学校運営協議会委員だけでなく、地域の方や児童生徒、教職員も参加すること。幅広い視点を取り入れることで、学校と地域の絆がより一層強まります。

## 熟議のテーマ例

- 『地域の力を学校教育で生かすには?』（谷村第二小）『安全支援』（宝小）
- 『学校と地域それぞれの願い』（東桂小・中合同）『先生の願い』（禾一小）
- 『地域の良いところと、地域をよくするために』（禾生第二小）

## 参加者の声（熟議後の感想）

- 【教職員】「地域の皆さんが学校や子どもたちのために真剣に考えてください、とても心強く感じました。」
- 【地域の人】「先生や保護者そして子どもたちとの話し合いで学校教育への関わり方が見えました。回を重ねるごとに熱量が高まっています！」
- 【保護者】「色々な立場の方の意見を聞き、学校や地域ともっと関わりたいと思いました。顔を合わせることが大切ですね。」
- 【児童生徒】「地域の方々が私たちのことをいろいろ考えててくれてすごく嬉しいです。都留市がもっと好きになりました。また参加したいです！」

## CSを活用した活動例

- 『カフェ谷ニッコリ』（谷村第二小）『米作り体験』（宝小）
- 『神楽体験、水かけ菜・わさび収穫』『みんなでプール清掃』（東桂小・中）
- 『家庭科ミシン補助』（禾生第一小）『七夕飾り』（禾生第二小）

## 参加者の声（活動後の感想）

- 【教職員】「子どもたちが地域のことを考え、行動しようとしている姿を知れて良かったです。」
- 【地域の人】「子供は挑戦でき、大人はその頑張りに力をもらえた、意義ある活動です。」
- 【児童の声】「神楽の美しさや、人とのつながりの大切さを知り、感謝の気持ちでいっぱいです。」

## CSの成果と課題

**成果**：学校・家庭・地域の一体感の醸成、子どもたちの地域への愛着の深化など

**課題**：CSの周知、地域と学校をつなぐコーディネーターの確保など

## まとめ

都留市のCSは、地域と学校が一体となり、子どもたちの未来を育む取組です。熟議を通じて、地域の力を学校教育に生かし、子どもたちが地域を誇りに思える環境づくりを進めています。都留市が描く未来は、『学校を核とした地域づくり』にあります！※詳細は、都留市ホームページをご覧ください！（右上のQRコードを読み込んでください）



“熟議”的様子。対等な立場で忌憚のない意見交換！



宝小 米作り授業



東桂小中 “みんな”でプール清掃！



「カフェ谷ニッコリ」 地域の方とのティータイム！学校と地域の垣根はありません！



禾一小家庭科ミシン補助



下:禾二小でのCS学習会(熟議)の様子(保護者・6年生・委員等)

